

2009/11/12

柏の景気情報（平成21年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年10月分）

○ 調査期間 : 平成21年10月19日 ~ 10月22日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	77	72.0%
建設	19	14	73.7%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	22	16	63.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年10月の調査結果のポイント】

《業況DI2か月連続でマイナス幅拡大》

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲57.1(前月水準▲56.0)となり、マイナス幅が▲1.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲42.8)、製造業▲58.8(同▲62.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲71.4(同▲50.0)、卸小売業▲63.3(同▲62.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲21.4ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「他社と値段比較交渉されることが多くなり、売上確保のため、値引き販売になることが多くなっています。そのため、利益減少になり、とにかくほかより安くしないと売れない状況です」(管工事業)、「省エネ関連の問い合わせは多いが、実行には程遠い。売り上げ高を昨年並みに維持するためには仕事量が多くなければならないが期待できない」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「返済猶予の利用後は資金繰りはどうなるのか？以前借りた分が返せないという企業に、銀行は新たな融資をするのか？それよりも全国緊急の政府保証枠を広げる方が企業にとっては助かると思う」(その他の金属製品製造業)、「9月に昇降機安全基準法改正により引き続き、商工業者は苦境に立たされている」(一般産業用機械設備製造業)、「まだまだ景気低迷の影響は続いている。関係業者からもよい話は聞こえてこない。断片的な仕事は入るが継続的にならず厳しい状況が続いているようだ」(その他の機械・部材製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「雇用状況が改善していない。企業業績の回復が見られず、給与賞与の伸び悩み、あるいは減少から、消費は慎重。この状況は当面続くと思う」(百貨店)、「大手の安売りが業界全体に悪影響を与えている。安売りではない独自のマーケティングを考えるべきである」(各種食料品小売業)、「買い控えが続き、あまり明るい話題がない。求人募集を出したところ、今までに無い位たくさん問い合わせがきた」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「不特定多数の方が利用される当温泉施設では、この先冬季を迎え、新型インフルエンザの流行で入浴者数の減少が心配される」(公衆浴場業)のコメントがあった。

◎先行き不安

各業種から、「政権交代でさらに公共工事が減ると思われ、どうなるのか心配です」(一般土木建築工事業)、「経済先行き不安に伴い、消費者も季節の限定目玉商品等には飛びつくが、購買意欲も少量なことから、厳しい取引となっています。秋の収穫期商品PRにて拡大を図っていきたい」(食料・飲料卸売業)、「9月中旬ごろから10月にかけて飲食業の営業が非常に下がっています。特に夜の営業が悪化しているため、食肉の卸業はいつまで続くか不安です」(食肉小売業)、「国の経済対策が直接的なものが見えてこないので先行き不安」(食堂・レストラン)などの声が多く上がっていた。

◎売上減少

各業種から、「売り上げ減少。月初めの天候不順、昨年行ったセールを今年は開催せず、商品価格の下落等の影響もあったと思う」(その他の各種商品小売業)、「昨年の開業景気の反動から、月初より売上高入店客数ともに低調な出足となった。また、台風の影響により、売上高が大きく落ち込みを見せた。イベント終了後も昨年を下回る推移となっていることから、月末にかけては、接客を強化し売り上げにつなげたい」(各種商品小売業)、「9月のシルバーウィーク以後居酒屋においてはひどい売り上げの落ち込みである。宴会の予約は12月に集中。単価も昨年よりひくめである。11月が心配。イベントを考えている」(酒場・ビヤホール)などのコメントがあった。

◎販売価格

各業種から、「秋冬物の衣料品に動きがないばかりか、宝飾品等の高額商品も売れていない。販売価格の下落はまだまだ続きそうだ」(その他の各種商品小売業)、「稼働は対昨年よりも凌駕したが、単価ダウンのため売上未達」(ホテル)などのコメントがあげられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
7月	▲61.6	▲64.7	▲62.5	▲62.9	▲53.8
8月	▲53.9	▲57.1	▲50.0	▲62.0	▲40.0
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
見通し	▲35.0	▲57.1	▲23.5	▲43.3	▲12.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲57.1(前月水準▲56.0)となり、マイナス幅が▲1.1ポイント拡大した。

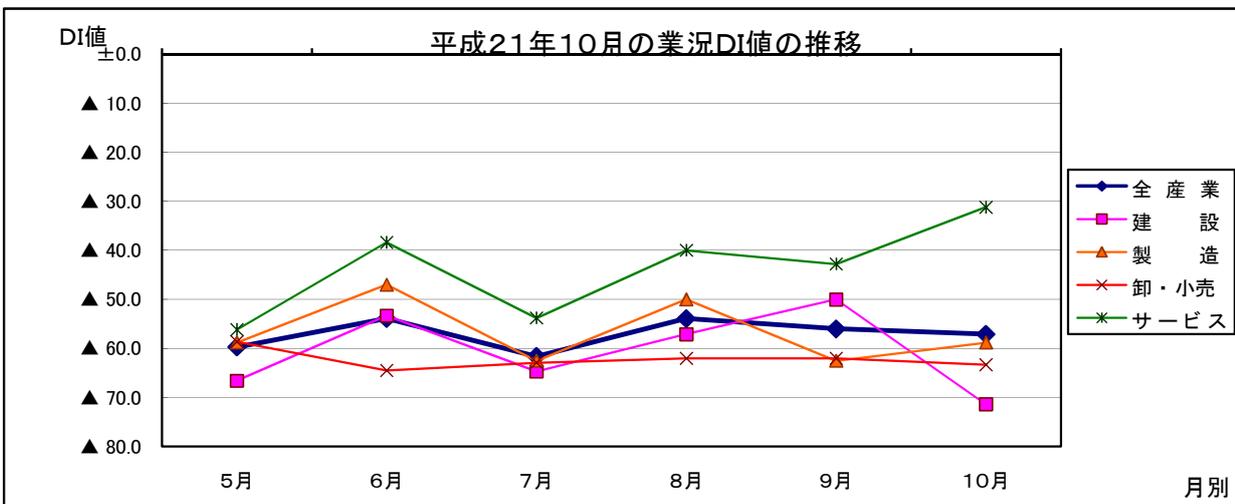
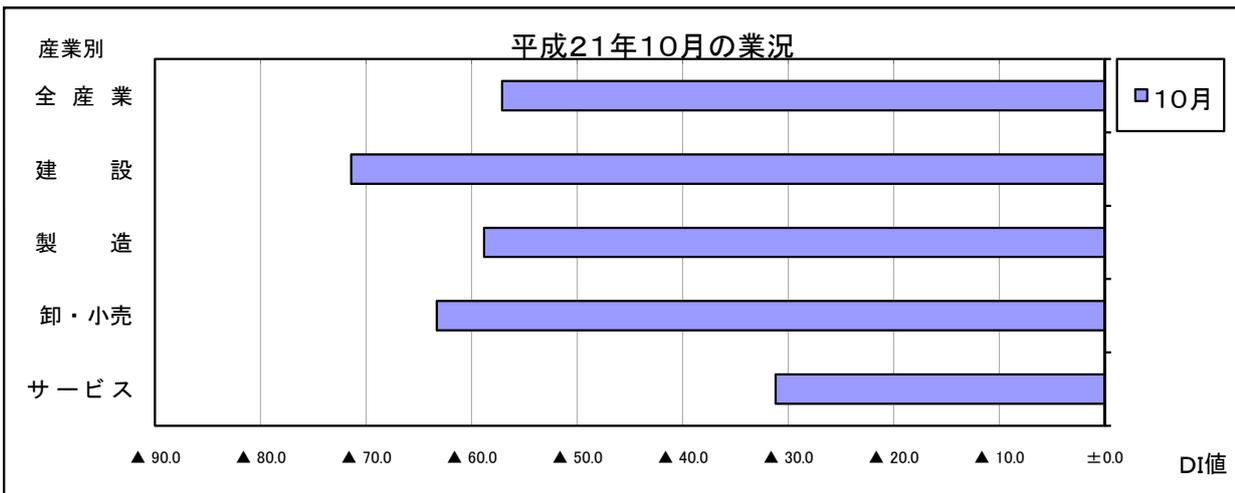
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲42.8)、製造業▲58.8(同▲62.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲71.4(同▲50.0)、卸小売業▲63.3(同▲62.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲21.4ポ

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.0(前月水準▲41.3)となり、マイナス幅が△6.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲12.5(同▲42.8)、製造業▲23.5(同▲37.5)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△30.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲57.1(同▲43.7)、卸小売業▲43.3(同41.3)である。

平成21年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し	
	5月						11月~1月	10月~12月
全産業	▲59.7	▲53.9	▲61.6	▲53.9	▲56.0	▲57.1	▲35.0	(▲41.3)
建設	▲66.6	▲53.3	▲64.7	▲57.1	▲50.0	▲71.4	▲57.1	(▲43.7)
製造	▲58.8	▲47.0	▲62.5	▲50.0	▲62.5	▲58.8	▲23.5	(▲37.5)
卸・小売	▲58.6	▲64.5	▲62.9	▲62.0	▲62.0	▲63.3	▲43.3	(▲41.3)
サービス	▲56.2	▲38.4	▲53.8	▲40.0	▲42.8	▲31.2	▲12.5	(▲42.8)



【平成21年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲58.4(前月水準▲61.3)となり、マイナス幅が△2.9ポイント縮小した。

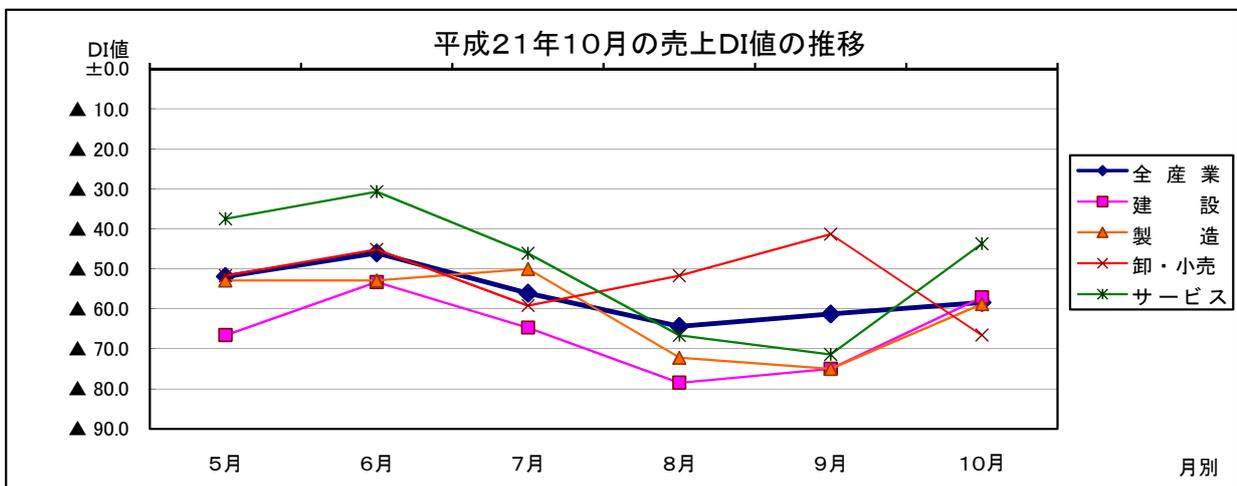
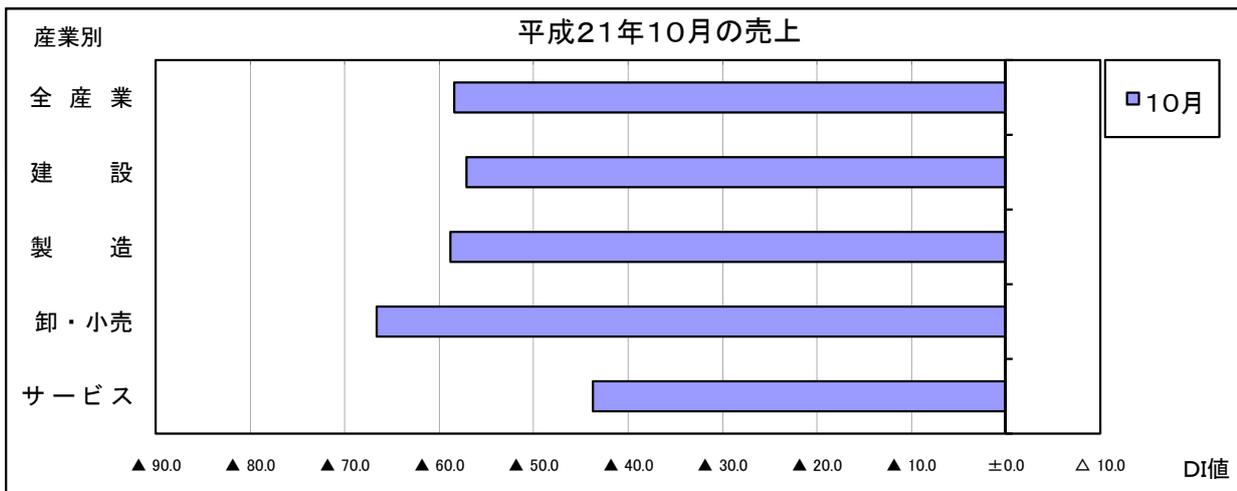
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲71.4±)、建設業▲57.1(同▲75.0)、製造業▲58.8(同▲75.0)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△27.7ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲66.6(同▲41.3)であり、マイナス幅が▲25.3ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.9(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲35.7)、製造業▲11.7(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.2(同▲37.5)、卸小売業▲20.0(同▲17.2)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲26.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲51.9	▲46.0	▲56.1	▲64.4	▲61.3	▲58.4	▲25.9(▲25.3)
建設	▲66.6	▲53.3	▲64.7	▲78.5	▲75.0	▲57.1	▲64.2(▲37.5)
製造	▲52.9	▲52.9	▲50.0	▲72.2	▲75.0	▲58.8	▲11.7(▲18.7)
卸・小売	▲51.7	▲45.1	▲59.2	▲51.7	▲41.3	▲66.6	▲20.0(▲17.2)
サービス	▲37.5	▲30.7	▲46.1	▲66.6	▲71.4	▲43.7	▲18.7(▲35.7)



【平成21年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲51.9(前月水準▲53.3)となり、マイナス幅が△1.4ポイント縮小した。

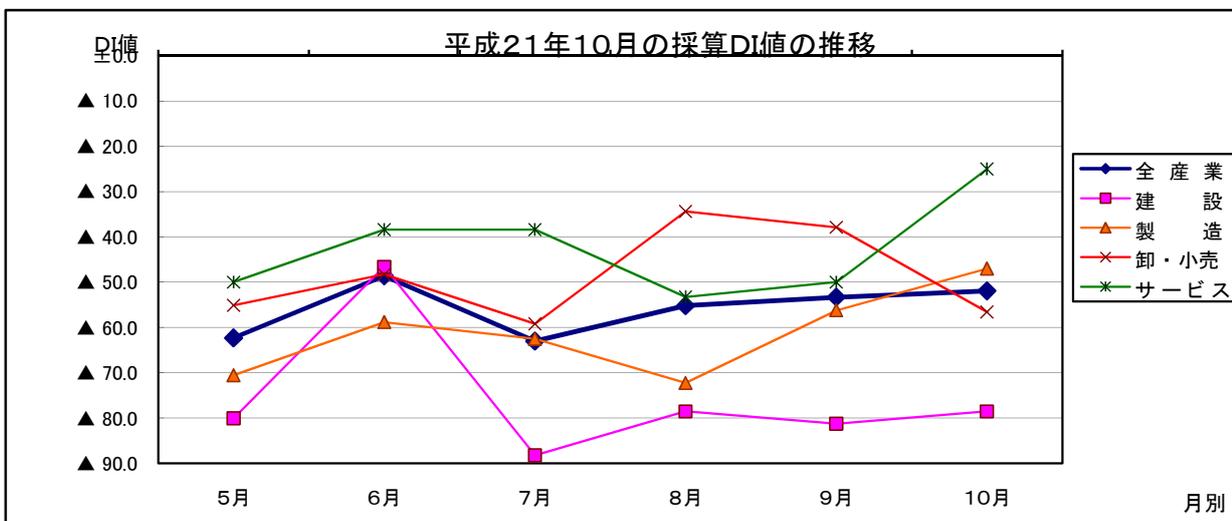
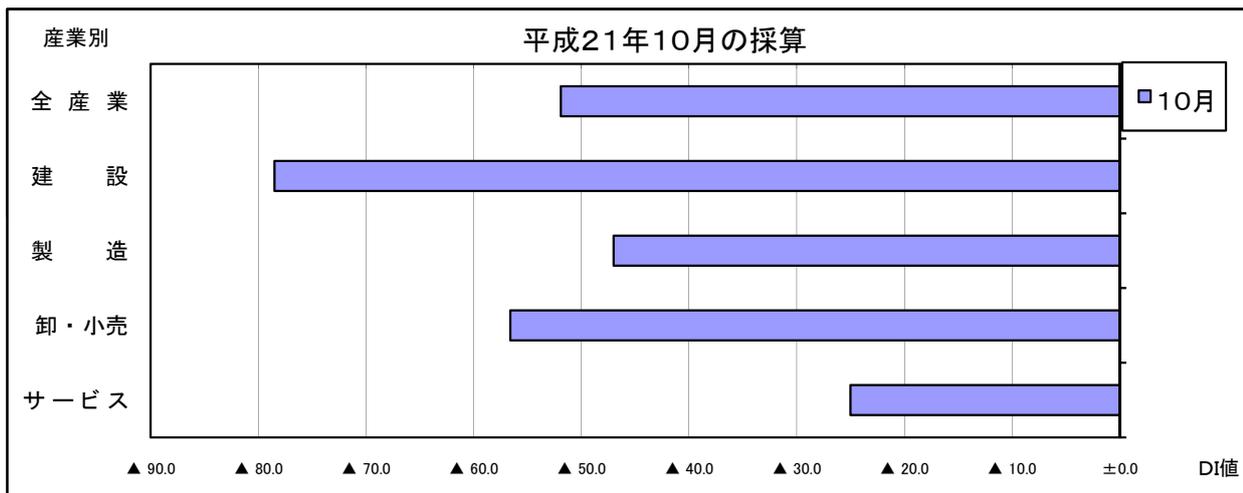
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲50.0)、製造業▲47.0(同▲56.2)、建設業▲78.5(同▲81.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△25.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲56.6(同▲37.9)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.0(前月水準▲36.0)となり、マイナス幅が△1.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲25.0(同▲35.7)、卸小売業▲30.0(同▲37.9)、製造業▲23.5(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲71.4(同▲37.5)であり、マイナス幅が▲33.9ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成21年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲ 62.3	▲ 48.6	▲ 63.0	▲ 55.2	▲ 53.3	▲ 51.9	▲ 35.0 (▲ 36.0)
建設	▲ 80.0	▲ 46.6	▲ 88.2	▲ 78.5	▲ 81.2	▲ 78.5	▲ 71.4 (▲ 37.5)
製造	▲ 70.5	▲ 58.8	▲ 62.5	▲ 72.2	▲ 56.2	▲ 47.0	▲ 23.5 (▲ 31.2)
卸・小売	▲ 55.1	▲ 48.3	▲ 59.2	▲ 34.4	▲ 37.9	▲ 56.6	▲ 30.0 (▲ 37.9)
サービス	▲ 50.0	▲ 38.4	▲ 38.4	▲ 53.3	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 25.0 (▲ 35.7)



【平成21年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲3.8(前月水準▲13.3)となり、マイナス幅が△9.5ポイント縮小した。

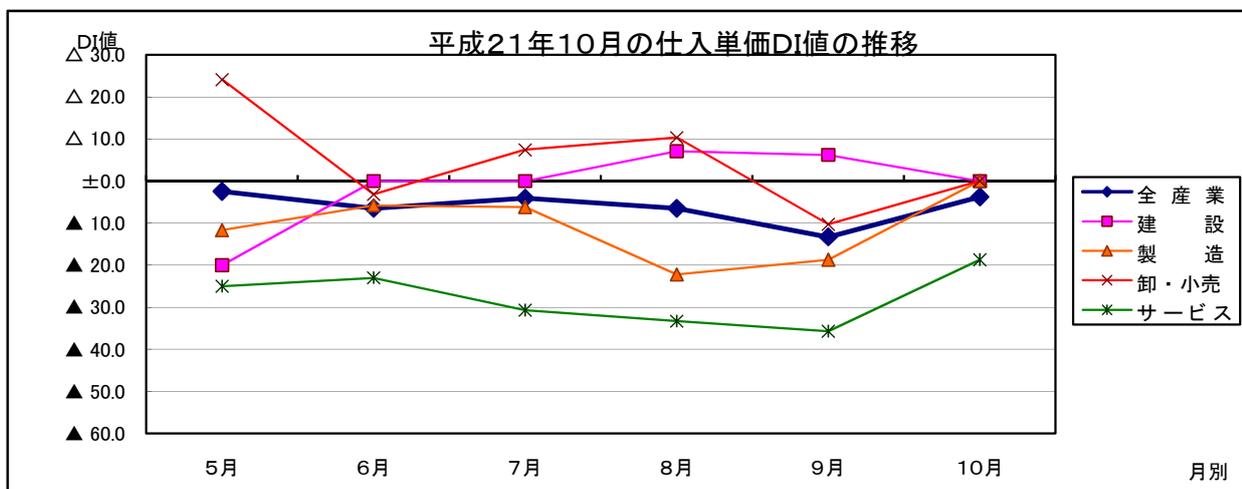
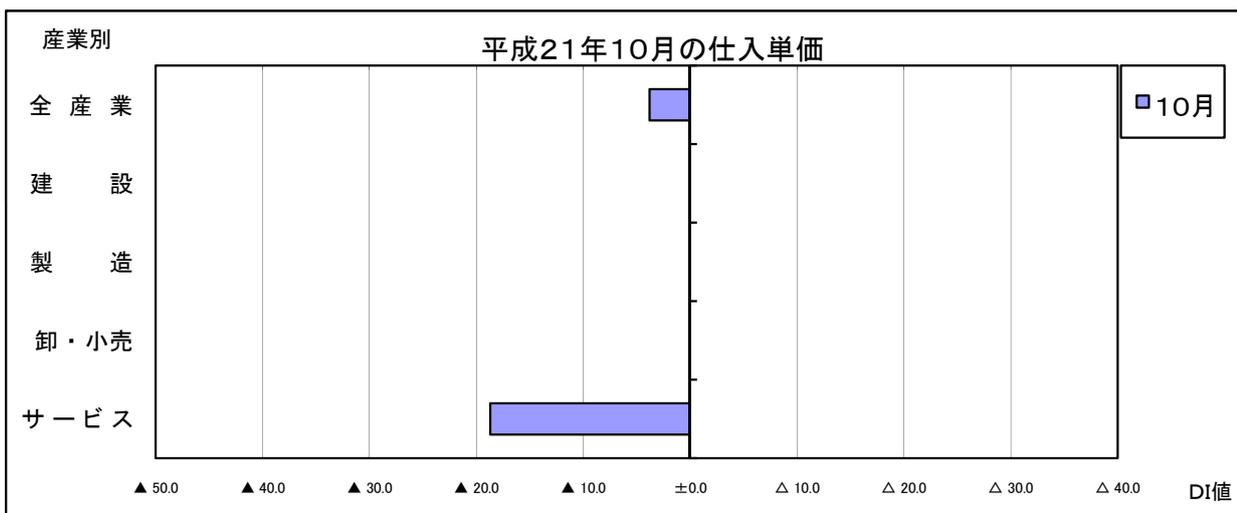
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲18.7)、サービス業▲18.7(同▲35.7)、卸小売業±0.0(同▲10.3)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.5(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が△3.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.8(同▲25.0)であり、△30.8ポイントと大幅に改善する見通しである。。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲13.3(同▲17.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同±0.0)、サービス業▲43.7(同▲35.7)である。

平成21年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲2.5	▲6.5	▲4.1	▲6.5	▲13.3	▲3.8	▲15.5(▲18.6)
建設	▲20.0	±0.0	±0.0	△7.1	△6.2	±0.0	▲14.2(±0.0)
製造	▲11.7	▲5.8	▲6.2	▲22.2	▲18.7	±0.0	△5.8(▲25.0)
卸・小売	△24.1	▲3.2	△7.4	△10.3	▲10.3	±0.0	▲13.3(▲17.2)
サービス	▲25.0	▲23.0	▲30.7	▲33.3	▲35.7	▲18.7	▲43.7(▲35.7)



【平成21年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.8(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が▲4.8ポイント拡大した。

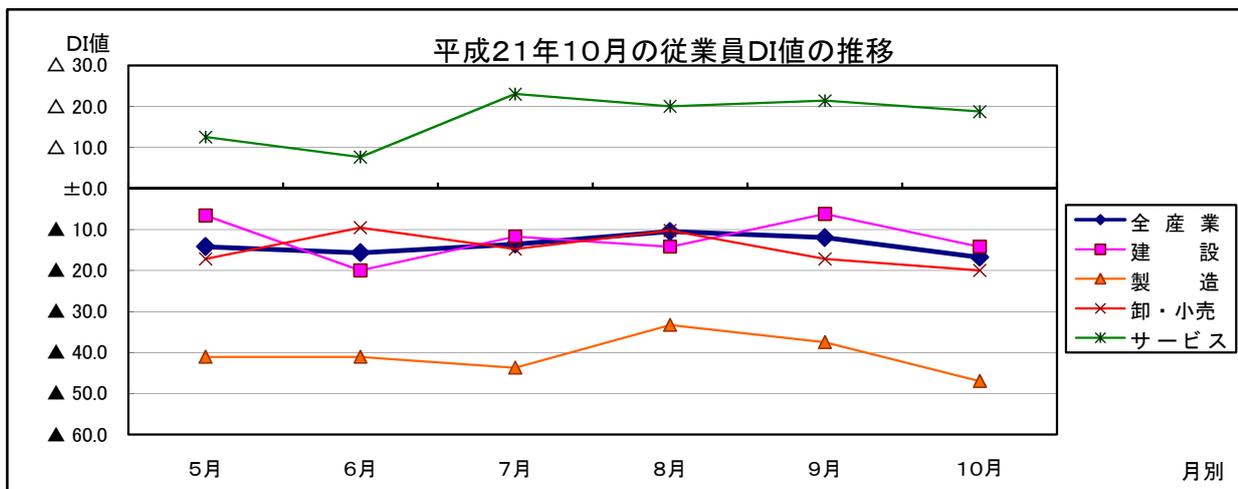
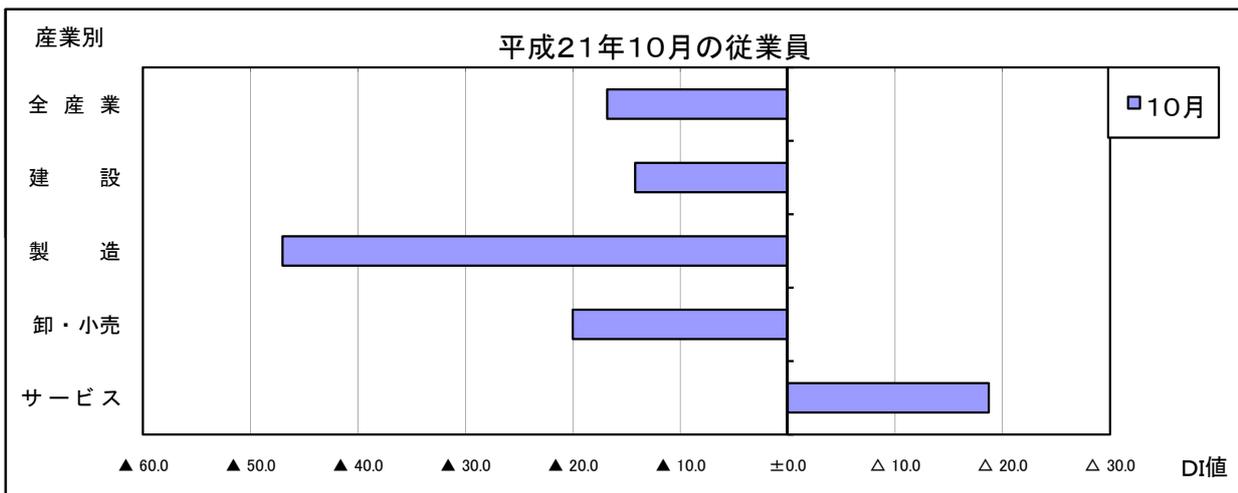
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、サービス業△18.7(同△21.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲47.0(同▲37.5)、建設業▲14.2(同▲6.2)、卸小売業▲20.0(同▲17.2)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.1(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が△5.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△31.2(同△21.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲6.6(同▲13.7)、建設業▲14.2(同▲18.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲29.4(同▲25.0)である。

平成21年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲14.2	▲15.7	▲13.6	▲10.5	▲12.0	▲16.8	▲5.1(▲10.6)
建設	▲6.6	▲20.0	▲11.7	▲14.2	▲6.2	▲14.2	▲14.2(▲18.7)
製造	▲41.1	▲41.1	▲43.7	▲33.3	▲37.5	▲47.0	▲29.4(▲25.0)
卸・小売	▲17.2	▲9.6	▲14.8	▲10.3	▲17.2	▲20.0	▲6.6(▲13.7)
サービス	△12.5	△7.6	△23.0	△20.0	△21.4	△18.7	△31.2(△21.4)



【平成21年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲37.3)となり、マイナス幅が△8.8ポイント縮小した。

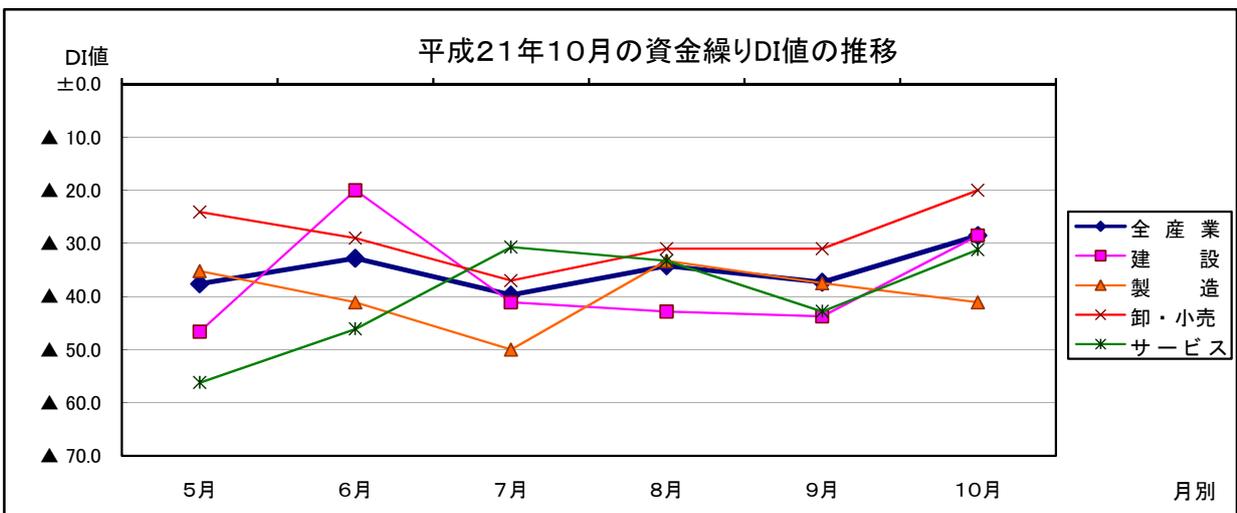
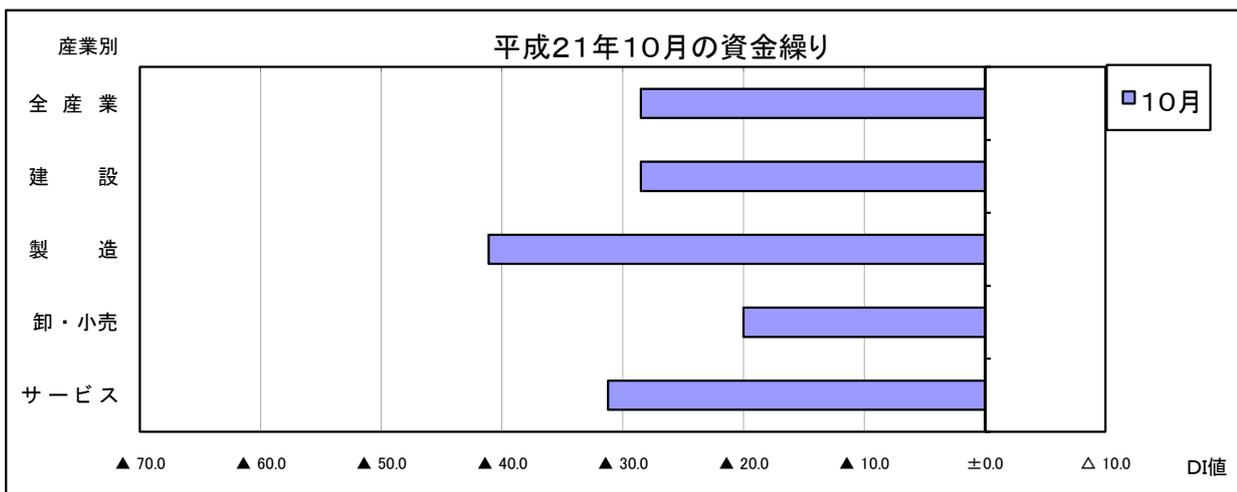
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲28.5(同▲43.7)、サービス業▲31.2(同▲42.8)、卸小売業▲20.0(同▲31.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲41.1(同▲37.5)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.0(前月水準▲30.6)となり、マイナス幅が△8.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲18.7(同▲50.0)、卸小売業▲16.6(同▲24.1)、製造業▲23.5(同▲25.0)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△31.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲35.7(同▲31.2)である。

平成21年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲37.6	▲32.8	▲39.7	▲34.2	▲37.3	▲28.5	▲22.0(▲30.6)
建設	▲46.6	▲20.0	▲41.1	▲42.8	▲43.7	▲28.5	▲35.7(▲31.2)
製造	▲35.2	▲41.1	▲50.0	▲33.3	▲37.5	▲41.1	▲23.5(▲25.0)
卸・小売	▲24.1	▲29.0	▲37.0	▲31.0	▲31.0	▲20.0	▲16.6(▲24.1)
サービス	▲56.2	▲46.1	▲30.7	▲33.3	▲42.8	▲31.2	▲18.7(▲50.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 58.4	▲ 25.9	▲ 51.9	▲ 35.0	▲ 3.8	▲ 15.5	▲ 16.8	▲ 5.1
建設	▲ 57.1	▲ 64.2	▲ 78.5	▲ 71.4	±0.0	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 14.2
製造	▲ 58.8	▲ 11.7	▲ 47.0	▲ 23.5	±0.0	△ 5.8	▲ 47.0	▲ 29.4
卸・小売	▲ 66.6	▲ 20.0	▲ 56.6	▲ 30.0	±0.0	▲ 13.3	▲ 20.0	▲ 6.6
サービス	▲ 43.7	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 18.7	▲ 43.7	△ 18.7	△ 31.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 57.1	▲ 35.0	▲ 28.5	▲ 22.0
建設	▲ 71.4	▲ 57.1	▲ 28.5	▲ 35.7
製造	▲ 58.8	▲ 23.5	▲ 41.1	▲ 23.5
卸・小売	▲ 63.3	▲ 43.3	▲ 20.0	▲ 16.6
サービス	▲ 31.2	▲ 12.5	▲ 31.2	▲ 18.7

【平成21年10月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	政権交代でさらに公共工事が減るとの恐れ、どうなるのか心配です。	政権交代 公共工事減少 先行き不安	一般土木建築工事業
	他社と値段比較交渉されることが多くなり、売上確保のため、値引き販売になることが多くなっています。そのため、利益減少になり、とにかくほかより安くしないと売れない状況です。 省エネ関連の問い合わせは多いが、実行には程遠い。売り上げ高を昨年並みに維持するためには仕事量が多くなければならないが期待できない 返済猶予の利用後は資金繰りはどうなるのか？以前借りた分が返せないという企業に、銀行は新たな融資をするのか？それよりも全国緊急の政府保証枠を広げる方が企業にとっては助かると思う。 9月に昇降機安全基準法改正により引き続き、商工業者は苦境に立たされている。	値引き販売 売上確保 利益減少 省エネ 売上維持	管工事業(さく井を除く) 電気工事業
工業	まだまだ景気低迷の影響は続いている。関係業者からもよい話は聞こえてこない。断片的な仕事は入るが継続的にならず厳しい状況が続いているようだ。	モトリアム法案 政府保証枠拡大	その他の金属製品製造業
	新規事業の稼働が許認可の関係でさ来月にずれ込んでしまった。仕事がない状態ではどの程度業績に寄与できるか見えない。	昇降機安全基準法改正	一般産業用機械設備製造業
	現在の状況は全て政治の低質化に要因すると思う。 雇用状況が改善していない。企業業績の回復が見られず、給与賞与の伸び悩み、あるいは減少から、消費は慎重。この状況は当面続くと思う。	景気低迷 断片的受注 厳しい業況 新規事業	その他の機械・同部分品製造業 生コンクリート製造業
卸小売業	食品部門が多少上昇に転じていますが、他社が食品の扱いを縮小したことによるものです。同じマーケット内で奪い合い状態です。 大手の安売りが業界全体に悪影響を与えている。安売りではない独自のマーケティングを考えるべきである。	政治の低質化 雇用の悪化 給与減少 消費慎重	食料・飲料卸売業 百貨店
	今月は野菜の入荷増から、極端な単価安に下落し、大幅売上減。しかし一部には不足しているものがあり単価高もある。果実は平年並みの動向で推移しています。経済先行き不安に伴い、消費者も季節の限定目玉商品等には飛びつくが、購買意欲も少量なことから、厳しい取引となっています。秋の収穫期商品PRにて拡大を図っていきたい。	マーケット奪い合い	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	客数対前年では横ばい。売り上げ点数微増。売り上げ減少。月初めの天候不順、昨年行ったセールを今年は開催せず、商品価格の下落等の影響もあったと思う。	大手安売り 独自マーケティング 青果単価安売上減少 先行き不安 購買意欲低迷	各種食料品小売業 食料・飲料卸売業
	買い控えが続き、あまり明るい話題がない。求人募集を出したところ、今までに無い位たくさんの問い合わせがきた。	売上減少 天候不順 価格の下落	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	冬季三カ月しか安心利益が望めない業界だが、季節アルバイトの採用方法次第でまだ寿命延長	買い控え 求人	菓子・パン小売業
	業界全体の不況で対策が立たず、全国チェーンの大型店の攻勢のみが目立つ昨今です。	アルバイト採用	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	秋冬物の衣料品に動きがないばかりか、宝飾品等の高額商品も売れていない。販売価格の下落はまだまだ続きそうだ。	業界不況 大型店の攻勢	書籍・文具具小売業
	10月は昨年の新館開業から一周年で、記念イベントを開催し、イベント自体は好評だったものの、昨年の開業景気の反動から、月初より売上高入店客数ともに低調な出足となった。また、台風の影響により、売上高が大きく落ち込みを見せた。イベント終了後も昨年を下回る推移となっていることから、月末にかけては、接客を強化し売り上げにつなげたい。	秋冬衣料品 高額商品不振 価格の下落	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	8月から商店会のポイントがカード制になり、毎月3日間3~5倍セールを行っており、その日は売上が上がる。アクションを起こしていかないと、客離れが発生すると思うので、当店はポイントと一店逸品で師走を乗り切りたい。	イベント好評 売上低調 接客強化	各種商品小売業
	9月中旬ごろから10月にかけて飲食業の営業が非常に下がっています。特に夜の営業が悪化しているため、食肉の卸業はいつまで続くか不安で	ポイントカード 一店逸品	書籍・文具具小売業
	飲食営業不調 先行き不安	食肉小売業	

【平成21年10月の業種別業界内トピックス】

サービス	国の経済対策が直接的なものが見えてこないので先行き不安	政権交代 先行き不安	食堂・レストラン
	全体の売上は対昨年で増。宿泊については特需あり。稼働は対昨年よりも凌駕したが、単価ダウンのため売上未達。宴会については周年パーティや大型SCオープン特需により対昨年売上凌駕。宴会宿泊とも、いわゆる顧客(法人)の利用が減少しており、特需利用でなんとか売上を確保している。	特需 単価ダウン 売上確保 法人利用減少	ホテル
	不特定多数の方が利用される当温浴施設では、この先冬季を迎え、新型インフルエンザの流行で入浴者数の減少が心配される	新型インフルエンザ	公衆浴場業
	9月のシルバーウィーク以後居酒屋においてはひどい売り上げの落ち込みである。宴会の予約は12月に集中。単価も昨年よりひくめである。11月が心配。イベントを考えている。	売上落ち込み 忘年会予約 単価低下 イベント対策	酒場・ビヤホール

◎先行き不安

- ・ 政権交代でさらに公共工事が減ると思われ、どうなるのか心配です。 一般土木建築工事業
- ・ 経済先行き不安に伴い、消費者も季節の限定目玉商品等には飛びつくが、 食料・飲料卸売業
購買意欲も少量なことから、厳しい取引となっています。
- ・ 9月中旬ごろから10月にかけて飲食業の営業が非常に下がっています。特 食肉小売業
に夜の営業が悪化しているため、食肉の卸業はいつまで続くか不安です。
- ・ 国の経済対策が直接的なものが見えてこないので先行き不安 食堂・レストラン

◎売上減少

- ・ 売り上げ減少。月初めの天候不順、昨年行ったセールを今年は開催せず、 その他の各種商品小売業
商品価格の下落等の影響もあったと思う。
- ・ 昨年の開業景気の反動から、月初より売上高入店客数ともに低調な出足と 各種商品小売業
なった。また、台風の影響により、売上高が大きく落ち込みを見せた。イベン
ト終了後も昨年を下回る推移となっていることから、月末にかけては、接客を
強化し売り上げにつなげたい。
- ・ 9月のシルバーウィーク以後居酒屋においてはひどい売り上げの落ち込みで 酒場・ビヤホール
ある。宴会の予約は12月に集中。単価も昨年よりひくめである。11月が心
配。イベントを考えている。

◎販売価格

- ・ 秋冬物の衣料品に動きがないばかりか、宝飾品等の高額商品も売れていな その他の各種商品小売業
い。販売価格の下落はまだまだ続きそうだ。
- ・ 稼働は対昨年よりも凌駕したが、単価ダウンのため売上未達。 ホテル

平成21年10月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲57.1に対し、「CCI-LOBO」が▲60.6で、柏の方がマイナス幅がポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・製造業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲58.4に対し、「CCI-LOBO」が▲57.2で、柏の方がマイナス幅が1.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲51.9に対し、「CCI-LOBO」が▲56.4で、柏の方がマイナス幅が4.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲3.8に対し、「CCI-LOBO」が▲7.6で、柏の方がマイナス幅が3.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業・製造業・卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.8に対し、「CCI-LOBO」が▲19.3で、柏の方がマイナス幅が2.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.5に対し、「CCI-LOBO」が▲40.2で、柏の方がマイナス幅が11.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、建設業・卸小売業は10ポイント以上良い。

平成21年10月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 57.1	 71.4	 58.8	 63.3	 31.2
CCI LOBO	 60.6	 64.1	 62.4	 62.9	 51.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 58.4	 57.1	 58.8	 66.6	 43.7
CCI LOBO	 57.2	 52.6	 62.0	 60.7	 49.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 51.9	 78.5	 47.0	 56.6	 25.0
CCI LOBO	 56.4	 55.9	 57.0	 60.3	 50.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 3.8	 ±0.0	 ±0.0	 ±0.0	 18.7
CCI LOBO	 7.6	 18.1	 7.6	 2.0	 12.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.8	 14.2	 47.0	 20.0	 18.7
CCI LOBO	 19.3	 30.4	 31.4	 10.7	 8.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.5	 28.5	 41.1	 20.0	 31.2
CCI LOBO	 40.2	 50.5	 47.8	 35.1	 33.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(10月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年10月19日～22日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数77

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
7月	▲61.6	▲64.7	▲62.5	▲62.9	▲53.8
8月	▲53.9	▲57.1	▲50.0	▲62.0	▲40.0
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
見通し	▲35.0	▲57.1	▲23.5	▲43.3	▲12.5

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIは2か月連続でマイナス幅拡大

10月の全産業合計のDIは前年同月比ベース、以下同じに57.1(前月水準56.0)となり、マイナス幅が1ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業31.2(同42.8)、製造業58.8(同62.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業71.4(同50.0)、卸小売業63.3(同62.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が21.4ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】

では、「他社と値段比較交渉される」ことが多くなり、売上確保のため、値引き販売になることが多くなっています。そのため、利益減少になり、とにかくほかより安くしないと売れない状況です。(管工事業)、「管工関連の問い合わせが多いが、実行には程遠い。売上高を昨年並みに維持するために、仕事量が多くなければならないが期待できない」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】

では、「返済猶予の利用後の資金繰りはどうなるのか?以前借りた分が返せない」という企業に、銀行は新たな融資をするのか?それよりも全国緊急の政府保証枠を広げることが企業にとっては助かると思う」(その他の金属製品製造業)、「9月に昇降機安全基準法改正により引き続き、商業者は苦境に立たされている」(一般産業用機械設備製造業)、「またまた景気低迷の影響は続いている。関係業者からモ

【卸小売業】

では、「雇用状況が改善していない。企業業績の回復が見られず、給与賞与の伸び悩み、あるいは減少から、消費は慎重。この状況は当面続く」と思う(百貨店)、「大手の安売りが業界全体に悪影響を与えている。安売りではない独自のマーケティングを考えるべきである」(各種食品小売業)、「買い控えが続く、あまり明るい話題がない。求人募集を出したところ、今までに無い位たくさん問い合わせがきた」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】

では、「不特定多数の方が利用される当温泉施設では、この先冬季を迎え、新型インフルエンザの流行で入浴者数の減少が心配される」(公衆浴場業)のコメントがあった。

10月の景気キーワード

先行き不安

各業種から、「政権交代でさらに公共工事が減ると思われる、どうなるのか心配です」(一般土木建築工事業)、「経済先行き不安に伴い、消費者も季節の限定目玉商品等には飛びつくが、購買意欲も少量なことから、厳しい取引となっています。秋の収穫期商品PRにて拡大を図つていきたい」(食料・飲料卸売業)、「9月中旬ごろから10月にかけて飲食業の営業が非常に下がっています。特に夜の営業が悪化しているため、食肉の卸業はいつまで続くか不安です」(食肉小売業)、「国の経済対策が直接的なものが見え

CCI LOBOVの比較

全産業合計では、「柏の景気」が57.1に対し、「CCI LOBOV」が60.6で、柏の方がマイナス幅が3.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・製造業で、サービス業は1.0ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業。

売上減少

各業種から、「売り上げ減少。月初めの天候不順、昨年行ったセールを今年は開催せず、商品価格の下落等の影響もあつたと思う」(その他の各種商品小売業)、「昨年の開業景気の反動から、月初より売上高入店客数ともに低調な出足となった。また、台風の影響により、売上高が大きく落ち込みを見せた。イベント終了後も昨年を下回る推移となっていることから、月末にかけては接客を強化し売り上げにつなげたい」(各種商品小売業)、「9月のシルバークイック以後居酒屋においてはひどい売り上げの落ち込みである。宴会の予約は12月に集中。単価も昨年よりひくめである。11月が心配。イベントを考えている」(酒場・ピヤホール)などのコメントがあった。

販売価格

各業種から、「秋冬物の衣料品に動きがないばかりか、宝飾品等の高額商品も売れていない。販売価格の下落はまだまだ続きそうだ」(その他の各種商品小売業)、「稼働は対昨年よりも凄驚したが、単価ダウンのため売上未達」(ホテル)などのコメントがあげられた。

付帯調査の結果

- ・モラトリウム法案の利用
利用したい：5件
必要なし：55件
利用したいが心配：12件
- ・雇用維持の対策
労働時間の調整：13件
賞与給与減額：26件
対応せず：34件
- ・売上の下げ止まり
下がっている：32件
止まったが低水準：34件
回復傾向：6件

CCCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成21年10月19日～23日
 調査対象：全国の407商工会議所が2589業種
 組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは、低水準の横ばいで推移

10月の業況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、60.6と、前月に比べると+0.8ポイントと、ほぼ横ばいで推移した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、卸売業で拡大し、製造業、小売業、サービス業で縮小した。

経済対策の効果などから、薄型テレビなど一部商品の売上は持ち直しているが、全体としては競争激化による低価格受注や販売単価の低下が続いている。企業の収益状況は厳しい。回復基調には至っていない。

先行きについては、4.9と、前月に比べ、3.5ポイントとマイナス幅が拡大した。雇用・所得情勢の悪化に伴う個人消費、住宅建設の減退、企業収益の落ち込みによる設備投資の減少、建設業を中心に公共工事の前倒し発注に伴う年度後半の工事量減少、新型インフルエンザの感染拡大、円高の長期化による景気の下振れや一番底を懸念する声が強い。

【建設業】「売上は底をついて横ばい。土木工事は依然少なく、住宅建設は微増」(土木工事業業)、「補正予算の一部停止

に関する影響が早くも出始め、国の工事が減少。県、市の工事についても減少を懸念」(一般工事業業)、「仕事量は昨年同様だが利益が出ない」(左官工事業業)

【製造業】「自動車関連については、底を脱した感があるが製造業全体としては依然厳しい状況」(自動車・同附属製品製造業)、「中小企業金融円滑化法案については、今後安心して借りられる制度であれば利用したい」(水産食料品製造業)、「先がぜんぜん見えない状況、年末年始の一番底を懸念」(他電気機器製造業)

【卸売業】「安ければ売れるという状況ではない」(農畜産水産物卸売業)、「対前月比ではほぼ下げ止まったが低水準が続く見通し」(鉱物金属材料卸売業)、「円高の影響を懸念している」(他卸売業)

【小売業】「食品は、他店との競争が厳しいが、春先と比べ客数は回復した。家電では、薄型液晶テレビが好調」(百貨店)、「従業員の時間外勤務の削減、アルバイトの出勤日数・時間の調整で人件費を削減するなど、収益減少をカバーしている」(その他の小売業)、「先行きの売上回復が見込めないため余力のあるうちに店をたたむ」(廃業)「店が多くなっている」(商店街)

【サービス業】「修学旅行は今のところ順調に推移しているが、新型インフルエンザの影響で、売上の見込みが立てられないなど先行きを懸念する声がある」(旅館)、「競合店が多く売上は低迷、経営者の高齢化が進み後継者もいないため廃業が多くなっている」(洗濯業)、「新型インフルエンザの影響による来客数の減少を懸念」(他の一般飲食店)

十月のキーワード

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から雇用の過剰感に関する声が寄せられている。「雇用維持のため雇用調整助成金等を検討している事業所が多い」(山形・製材木製品製造業)、「雇用調整助成金がなくなった場合、倒産する事業所が増える可能性を懸念」(西尾・鉄骨鉄筋材製造業)、「一時帰休の延長を検討する企業も見られる」(館山・金属加工機械製造業)、「従業員の自然減を補充しないので対応している」(倉吉・農畜産水産物卸売業)、「業界を取り巻く環境が低調のまま上向かない。後継者が家業に魅力を感じず廃業も出ている」(銚子・他の一般飲食業)

資金繰りの悪化

売上低迷や売掛金の回収サイクルの長期化から企業の資金

繰りは厳しさを増している。また、中小企業向け融資や住宅ローンの返済を猶予する制度を盛り込んだ、中小企業金融円滑化法案に関する声も寄せられている。「資金繰りは厳しさを増しており、売上の減少に伴い借入残高の比率が上がっている」(さいたま・金属加工機械製造業)、「売上の見通しが立たず、先が見えないので返済が不安で、借り入れ自体ができない」(多治見・すし店)、「中小企業金融円滑化法案が実現すればぜひ利用したい」(浦安・農畜産水産物卸売業)、「徐々に上向いているが、支払いが過多のため苦しい。返済猶予がされれば立て直しが可能だ」(土佐清水・食料・飲料卸売業)、「借入金の返済猶予を受けたい」(中小企業金融円滑化法案の動向に注目している)「臼杵・印刷業」

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下等について訴える声が多く寄せられた。「単価が安く採算のとれない工事が多い」(島田・建具製造業)、「消費者は安くても必要なものしか買わない」(東大阪・その他の小売業)、「土曜日の宿泊客が増したが、客単価は依然低く、経営が厳しい状況は変わらない」(福山・旅館)、「過剰な価格競

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲65.7	▲71.6	▲69.1	▲66.2	▲66.2	▲57.7
6月	▲64.2	▲66.7	▲70.6	▲61.8	▲63.4	▲57.3
7月	▲63.6	▲61.2	▲65.7	▲65.5	▲65.1	▲60.3
8月	▲59.6	▲56.3	▲62.9	▲61.1	▲60.7	▲56.3
9月	▲61.4	▲57.5	▲67.0	▲56.8	▲64.0	▲56.9
10月	▲60.6	▲64.1	▲62.4	▲65.4	▲62.9	▲51.8
見通し	▲49.9	▲57.7	▲46.3	▲51.1	▲52.7	▲44.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI